

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第10巻：

福島県白河市におけるケリ *Vanellus cinereus* の繁殖

戸辺 進

キーワード：ケリ, *Vanellus cinereus*, 繁殖, 観察記録, 白河市

はじめに

ケリ *Vanellus cinereus* は、千葉県やその周辺においては冬鳥として少数が水田などで観察される。

また千葉県レッドデータブックでは最重要保護生物に属し(千葉県2000), それによれば県内での繁殖は、1998年野田市が初である。

現地福島県白河市十三原は、福島・栃木県境より約5km北に位置する、標高約350mの台地である。周囲は落葉広葉樹と、赤松を主とする常緑樹の林、水田・畑で、市街地までは2.0km程の距離である。南には標高400mから600m程の低山が連なる。また阿武隈川が営巣地の北西約3.0kmを流れる。

営巣地は、綿羊・種畜牧場跡地約50万平方メートルの企業の研修施設の一郭で、7階、3階、2階立ての研修及び宿泊施設に西と南を、北を常緑樹林・竹林に囲まれ、シロツメクサの繁茂する約150m四方の草地で、その草地が私道を挟んで更に東に200m程広がる。

鳥相としては2001年2月の赴任から、これをまとめた11月までの間に50数種を数え、アオゲラ(営巣), ウソ, ベニマシコ, アトリの群, ホトトギス, カッコウ, オオヨシキリ(営巣), コチドリ(営巣), カワセミなども観察された。

2001年5月29日正午過ぎ, 筆者はその研修施設内中庭において, キリッキリッとけたたましく鳴くハト大の鳥を発見した。

暫く観察するとその鳥の特徴から, ケリと判明した。

ケリは, 近くを通る人に対して非常に攻撃的であったため, またその季節から繁殖しているものと考えられたため, 直ちに観察と保護活動を開始した。

以下に観察の方法や結果について記す。

観察方法

営巣に影響を与えないよう, 主に巣から約100m離れた南側宿泊棟6~7階の非常階段より観察した。

高倍率の撮影は, 上記地点において20倍のプロミナーに一眼レフカメラ及びCCDカメラとビデオの組み合わせで行った。

また施設内全従業員及び研修生らにEメール, ポスターの掲示などで保護への協力を依頼した。

観察経過

- 5月29日 曇り
12:38 コアジサシのような、「キリッ, キリッ」というけたたましい声を室内より聞く。
翼のはっきりとした白と黒, 胸の黒っぽいバンド, 飛翔時脚をサギ同様後方へ伸ばす, 降りた時の背中の色が茶色であることなどからケリであることを確認。
18:10 筆者が近づくと威嚇してきた。
18:15 遠くから観察すると, 筆者を気にしつつも歩き始める。
もう一羽少し離れた地点に飛来, 着地。
- 5月30日 曇り
5:10 7階の観察地点に行く際少し鳴いて筆者に近付いた。
5:45 水たまりで水浴。後に芝生を歩き回り, 立ち止まり羽繕い。

- 5:50 東側の水田へ飛び発つ。
 6:10 ケリらしき3羽,あるいは1羽がカルガモ等で残り2羽がケリか,南東から北へ飛び,北の調整池へ降りたのもよう。
 8:20 清掃会社社員2人が巣の南約20mにある木道を通る際威嚇された。その2人は木道より巣の場所を筆者に示した。
 12:40 巣の南約50mの木道を歩くとケリは筆者の頭をかすめるように威嚇してきた。風圧を感じた。
- 6月3日 快晴
 15:55 抱卵しているもよう。
 16:06 番の相手が近くに来た。巣から発つ。鳴き交わす。
 近くの上空でトビ・カラスを攻撃
 16:28 1羽,南側の水田で採餌。コサギのように,土中を足で探る。
 16:54 トビ飛来,威嚇する。
 16:58 巣に戻る。
 17:03 相手が戻る。鳴き交わす。
 17:10 水田へ飛ぶ。
 声が非常にけたたましく反響するため,多数のケリがいるような感じがする。
 ハクセキレイが近くに来てても気につけない。
 周囲にコチドリの声。
- 6月12日 晴れ
 6:20 2羽飛翔。
 6:25 着地。
 6:30 人が来た。1羽飛び発つ。
 6:40 巣に戻る。抱卵。
- 6月13日 晴れのち曇り
 8:20 静かなので巣の方へ近付いてみると,草むらから鳴き,相手が水田から戻り筆者を威嚇した。見事な連携である。
 12:30 50mほど離れた建物の横から覗くと巣を飛び立ち向かって来た後,巣から少し離れた所に降り暫く佇む。
- 12:40 羽繕い。
- 6月17日 晴れ
 17:45 抱卵交代か,木道に1羽。
 17:51 水田の方で1羽鳴く。
 巣に戻る。卵を気遣うような腹の着け方。
 カッコウ,ツツドリ,コチドリの声。
 18:28 鳴く。
 18:38 一旦巣を離れ再び戻る。やはり卵を気遣う座り方。
 抱卵の向きを東に変えた。
 18:43 相手は木道に佇んでいる。
 18:46 糞をした。白い糞である。
 このように夜を過ごすのだろうか。
- 6月18日 晴れのち曇り
 12:38 周囲の建物に沿って歩いただけでも威嚇に来た。
 観察当初より威嚇の激しさを増したようだ。
 相手は木道に片足で立っている。
 18:23 巣の1羽,頻りに動く。抱卵の状態だが腹が気になるのか,少し立ったり座ったり。
 18:39 同様の状態を繰り返す。
 18:40 あくびをした。
 18:49 親が少し立った瞬間,雛を確認。雛は親の胸に潜り込む。
 相手は木道に佇んでいる。
- 6月19日
 6:20 よく鳴く。雛2羽確認。
 6:24 一方の親水田へ。雛は親の胸を出る。
 6:26 1羽親の胸に戻る。親は常に周囲に気を配っている。
 6:29 雛もう1羽戻る。
 6:35 雛2羽,親の胸を出た。親は他にも卵があるしぐさ。
 雛の首の後ろは白い。何かをついばむ。ヨタヨタ歩く。
 この時点でもまだ雛が親から餌をもらうところを確認していない。
 7:21 中型の犬,北西の方角から侵入。草よりも低く雛を抱いているケリだ

が、犬の侵入を70m程の距離で既に察知する。筆者は、ケリの親の様子から犬の侵入を知った。

犬はケリの猛烈な威嚇により、すぐに東へ退散した。

7:22 ケリ親子、元の状態に戻る。

7:35 相手が東側を飛翔、鳴きつつ旋回する。

6月19日 小雨

12:38 巣より50m以上離れた宿泊棟に沿って歩いて親は威嚇に来た。

18:15 声はするが姿は見えない。

18:20 鳴かなくなった。

18:31 鳴き始めた。

守衛担当者が筆者にケリの卵の殻と風切1枚を持参。いずれも巣から50m程離れた木道で拾ったとのこと。ドバトが卵の殻を離れたところへ捨てるのと同様か。

6月20日 曇り

6:35 昨日までの、巣とは違う場所にいる。

6:38 親は近寄ってきたカワラヒワ(5羽)までも追い払う。

6:40 雛2羽確認。

6:45 雛3羽確認。1羽は歩き回り、2羽は親の胸を出た。

6:48 親が少し離れた木の蔭まで移動する。雛が行く。

親は常に雛に気を配り、「キリッキリッ」と一定の間隔で細く鳴く。

6:51 親1羽と3羽の雛はそれぞれ水溜まりや草むらで思い思いに過ごすようになった。

7:19 南の水田で相手が鳴く。

7:24 相手が戻った。

7:25 親2羽で並ぶ。交尾。

7:26 飼育交代。相手は南の水田に飛び発つ。

19:05 一声聞こえた。

6月21日 曇り

6:51 一方の親、水田へ。

6:54 人が近付くといち早く気づき威嚇。

6:57 2羽の雛は親の胸に。

7:02 一方の親、水田より戻る。

7:04 3羽の雛確認。親の周囲を歩きつつ採餌。

7:21 親2羽でそれぞれ雛を抱く。

7:34 一方の親、水田へ飛び発つ。

7:40 水田の親、合図を送るかのようにつき鳴く。

雛側の親も、同じトーンで一声ずつ鳴く。

6月22日 曇り

6:45 雛3羽確認。

6:58 雛3羽親の胸を出た。雛は自ら餌を獲っているようだ。

この時点でもまだ親が雛に餌を与えているのを見ていない。

7:00 一方の親、水田より戻り木道で羽繕い。

7:10 木道の親、営巣場所西側の建物の方へ飛び立つ。この方向への飛翔初めて。

12:23 親1羽、研修施設南側の柵を越えた民家の畑で盛んに鳴く。トビが南側水田を飛んでいたためか。

6月23日 曇り

5:15 営巣地南西約500m付近水田の農道を拠点にヘリコプターによる農薬の空中散布が始まる。

5:40 営巣地及びその周辺にケリの姿なし。

7:00 巣のあった場所に入ってみたが、巣の跡は確認できなかった。風切と卵の殻を採集。

7:10 ヘリコプター、ケリが採餌場所としていた南側水田を低く飛行。

6月25日 曇り

6:10~7:10 水田及び営巣地周辺を探したが、ケリを確認できず。

6月26日 曇り

7:45~8:00 確認できず。

6月30日 曇り一時小雨
9:00～11:30 日本野鳥の会白河支部代表者3名と共に、営巣地周辺を調査。巢のあった場所に入って見たが巢などの跡は確認できなかった。

7月23日 晴れ
5:45 ケリのような声を営巣地より西側約500mの建物の中より聞いた。

7月26日 晴れ後一時曇り
19:19 営巣地から西に約1000m程の地点でケリの声を約5秒間はっきりと確認。日没後の水田上空を西から東へ飛んでいたもよう。

付 記

この観察に伴い思い当たることとして以下を挙げる。

・5月10日20:20、営巣地の西約1500mの地点でケリと思われる“草笛のような声”を聞いている。北から南へ飛んでいるようであった。

・5月19日8:40、営巣地の北約250mの調整池を飛び立った鳥が同様の声だった。

・5月20日21:40、営巣地西約500mの建物の中から同様の声を聞いている。

・上記の声は、2001年5月5日22:43、千葉県東葛飾郡沼南町布瀬、手賀川の南約1500mの台地上で聞いている。

その他目撃情報

・社員の中には、筆者がケリを最初に目撃した日の4～5日前に“変わった鳥”として目撃している者が数名いる。

・6月22日10:00頃研修施設守衛が、巢のあった場所から約150m南の敷地内路上を2羽のケリ成鳥と雛3羽を確認している。守衛はその鳥の特徴として、「親は目が赤い。一方の親はもう一方より大きい。」ということ挙げている。ケリの親子がこれほどの移動をしたのは初めてで、この証言は筆者が同日12:23頃ケリの親を敷地の南隣の民家の畑で確認したことと結びつく。

・6月23日6:00少し前、採餌場所としていた水田で「“変わった鳥”を見た。(営巣地前の水田近くの住民2人)」という証言

・6月30日の数日前、採餌場所としていた水田で親を見た。(日本野鳥の会白河支部会員)

観察結果要約

以上の観察結果の要約は以下の通りである。

- ①ケリが営巣を開始したのは5月24日頃である。
- ②ケリは当初約30分で抱卵を交代していた。
- ③採餌場所は、巢から300m程と近く、ほぼ同じ場所である。
- ④コサギ同様、泥の中を足で探る。
- ⑤最初の雛の孵化は6月18日である。
- ⑥雛の数は3羽である。
- ⑦雛が誕生すると親の警戒は一層激しくなり、カワラヒワまでも追い払う。
- ⑧侵入する人や犬に対しては非常に速く察知する。
- ⑨雛は親から餌をもらっていない。また、水は巢の近くに水溜りがあり、営巣期間中は水が枯れることはなかった。
- ⑩雛は誕生後翌日には歩いた。
- ⑪雛は日ごとに親の胸にいる時間よりも外を歩く時間のほうが長くなり、雛孵化後3日程で親は雛を巢から離れた場所に導き始める。
- ⑫この頃にも交尾をする。
- ⑬雛は、親の胸の羽の間に挟み込まれるように潜っている。そのため親が立つとぬ胸にぶら下がるような格好になる。
- ⑭雛が親の周囲を歩いている間、親は一定の間隔とトーンで鳴き続ける。
- ⑮巢に侵入者などが現われると鳴き、採餌中の相手に伝え、相手は巢に戻る。
- ⑯日没頃、採餌中の親は相手と雛の近くに帰り、約20m離れて佇む。

考察その他

福島県内のケリの繁殖地としては猪苗代湖畔の赤井谷地、会津地方の昭和村矢の原湿原が知られている(福島県の野鳥.1996.福島県)。

白河市周辺での繁殖例としては、日本野鳥の会元評議員で白河支部代表高萩一郎氏らによれば、1980年代西郷村での繁殖例が挙げられる。また日本鳥類大図鑑によれば1955年7月に、同所より5kmほど離れた東北本線矢吹駅付近で確認されているのみである(清棲幸保著日本鳥類大図鑑)。

このように、非常に希少な野鳥ケリが10年以上の時を隔てて同地周辺で繁殖したことは、それ自体特筆に値することであるが、なぜそこが開設後間もない一企業の敷地内であったのだろうか。

それについては、以下が考えられる。

- ①不特定多数の人や獣の侵入がなかったこと。
- ②繁殖に適当な面積であったこと。
- ③植生が適当であったこと。
- ④水溜りができ水が確保でき、餌と思われる昆虫も存在したこと。
- ⑤採餌場所である水田が非常に近くにあること。

また、その後筆者が巣のあった場所に足を踏み入れてみたが、ケリの繁殖地に関する先入観なしに考えても、当地が高原の草地の風情を保っている場所であることを五感で感ずる。

ケリが雛孵化後わずか5日程で親子とも姿を消したことについては、前述高萩氏によれば、親が雛を一層深い藪の方へ隠したのではないか、ということである。

尚、ケリの雛が営巣地から200m程の距離の水田まで自ら歩いて向かうとした場合、途中人の腰ほどの藪、民家数件、樹木の繁る斜面、畑、深さ幅50cmのコンクリート製の水路が2本、自動車の往来の頻繁な6m幅の舗装道路があり、困難を極める。

またケリが姿を消した日の早朝、ヘリコプターによる水田への農薬散布が行われたが、このことについてもケリの繁殖への影響が懸念される。

野鳥、殊にシギ・チドリを取り巻く環境は年々厳しさを増してきたが、藤前干潟や三番瀬の埋め立て中止にみられるように、近年ようやく徐々にではあるが鳥類や環境への配慮、共存という考え方も社会に浸透し始めてきた。

今や環境は一個人や企業のものではなく、人を含めた地球上に存在する者共有の財産であると考えべきである。今回ケリは企業の敷地内に繁殖したわけだが、この貴重な環境を、いわゆる企業の論理で左右してはならない。

敷地内にはケリに留まらず、アオゲラ、コチドリ、オオヨシキリ、キジの繁殖も確認さ

れている。またカッコウ、ホトトギス、コゲラ、ヒバリの繁殖も容易に想像がつく。カシラダカ、アトリも群をなして越冬し、メジロ、ヒヨドリなどの漂鳥も中継地としている。

今後は、施設内において自然観察路や生態園を設置するなどして、環境教育の場として内外に公開し大いに利用されることを願う。

謝 辞

思いもよらないケリの営巣繁殖に際し、早速多くの資料、適切なアドバイスを賜り、かつこのように発表の場をご提供下さった学芸員時田賢一氏をはじめ我孫子市鳥の博物館の皆様には深く感謝いたします。

研修センター敷地内の長時間にわたる調査にご同行くださり貴重な証言を下さった日本野鳥の会白河支部の皆様には深く感謝いたします。

ケリの保護活動にご理解ご協力を下さった、JR東日本総合研修センター渡辺所長をはじめすべての社員、グループ企業の皆様には深く感謝いたします。

要 約

ケリは千葉県レッドデータブックでは最重要保護生物に属する希少な野鳥で、その繁殖も愛知県と秋田県が主である他は非常に局地的である（生物多様性調査鳥類調査中間報告書.1999）。

日本野鳥の会白河支部高萩一郎氏らによれば、白河市周辺での繁殖は1980年代が最後であった。

2001年5月下旬、福島県白河市の、筆者が属する企業研修施設において、ケリ *Vanellus cinereus* が営巣を始めた。

筆者は初認の2001年5月29日から、消息を絶った6月25日まで観察及び保護活動を行った。

主な観察結果としては、雛が親の胸にいる時の様子、採餌、交尾が挙げられる。

しかし親鳥と3羽の雛は、最初の雛誕生後僅か5日目で消息を絶った。

雛の巣立ちまで確認することはできなかったが、1ヶ月以上経った7月26日、繁殖地から約1kmの地点でケリの声が聞いている。

引用文献

- 千葉県. 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック動物編—. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
- 福島県. 1996. 福島県の野鳥. 福島県農林水産部森林整備課, 福島.
- 清棲幸保. 1995. 日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.
- 環境庁自然保護局生物多様性センター. 1999. 生物多様性調査鳥類調査中間報告書. 環境庁, 東京.

資 料



写真1 全景

6月3日



写真2 飛立つ瞬間

6月3日



写真3 威嚇

6月3日



写真4 飛翔

5月30日



写真5 巣に戻る

6月3日



写真6 巣に戻る

6月3日



写真7 巣に戻る

6月3日



写真8 巣に戻る

6月3日



写真9 雛が胸からぶら下がる 6月19日



写真10 親と雛1羽 6月19日



写真11 親と雛3羽 6月21日



写真12 水田で採餌 6月3日

Breeding of Gray-headed Lapwing *Vanellus cinereus* in Shirakawa City, Fukushima Prefecture

Susumu Tobe

Gray-headed Lapwing *Vanellus cinereus* is one of scarcity bird belongs the Red data book of Chiba-prefecture. Aichi and Akita-prefecture is known for their breeding area. But other area are very local. 1980's was the last of their breeding in Shirakawa-city and around the village. The end of May, Gray-headed Lapwing nest at the courtyard of my office in Shirakawa-city. I was keep on observation and conservation during the finding day 29th May to 25th June. The chief results are the form of chicken, forage, and copulate. But only 5days later since the first chicken hatch, they disappeared somewhere. I could not conservation until the day when the chicken left the nest. One month later, I hard the notes of Gray-headed Lapwing 1 kilometer near at 26th July.

KEY WORDS : Gray headed Lapwing *Vanellus cinereus* Breeding observation Shirakawa-City

1-502 Morita-manshon 3-28 Tokiwadaira, Matudo, Chiba 270-2261, Japan.